

学校経営の大綱

1 はじめに

中学生という多感な時期には、心身共に劇的な変化が生じ、めざましい成長を遂げると共に、その過程では様々な課題も生じやすい。これらの課題に対して、組織力を生かし、柔軟に対応することが学校には求められている。様々な課題を解決し、健やかな成長を遂げる為の基盤となるのは、自他のよさを認め合った上で、個としても集団としても課題に正対し、より高い目標に向かって歩もうとする姿勢を育むことである。その理念の元で、教育活動を推進することが重要である。さらに、『多様性』をキーワードとした学校経営には、地域や家庭と学校との協働が不可欠である。一方で、学校は、地域になくはならない存在として、様々な面で地域貢献する存在でありたい。以上のことから、

○生徒一人一人が、自他のよさや成長を実感できる

○安田中学校の生徒が母校に誇りをもてる

○安田中学校及び生徒が地域の宝だと思ってもらえる

を具現化すべく、地域と学校の‘共生・協働’を学校経営の基本方針とする。

2 目指す生徒の姿

- ①互いの存在に関心をもち、共に高まろうとする生徒
- ②自分自身を厳しく見つめ、見通しと向上心をもって行動できる生徒
- ③社会の一員としての自覚をもち、他との信頼関係を築けるよう行動する生徒
- ④集団生活におけるルールやマナーを大切に考え、行動できる生徒

3 生徒に育みたい力

① 自己肯定感・自己有用感

○「自分にもいいところがあるんだな。」と思える気持ち（自己肯定感）

○「他の人や社会に役立ちたい。役に立っている。」と思える気持ち（自己有用感）この2つが育まれている生徒は、他の人に対しても寛容であり、他のよさや成長・変化もまた感じとることができる。

② 自ら考え、自ら学ぶ力（学力の向上）

○学習に関する自己分析を行いながら、自己の課題解決に向けて取り組む力

○学びの実感、進歩の実感を感じながら、常に目標をもって学ぶ力

○繰り返し学習することの大切さを理解し、家庭学習に継続的に取り組む力

③ 豊かな人権感覚

○差別や偏見に苦しむ人たちの思い、様々な困難を抱えた人たちの存在を、相手の立場に立って考え、理解する力（心情の理解）

○「どんなことが人を傷つけるのか？」を、常に心に留めて行動できる力（判断力）

○周囲に流されることなく、差別や偏見に対して、強い決意をもって毅然とした態度・行動がとれる力（行動力）

④ 人間関係づくりにかかわる意識啓発、スキルの向上

○個性を、他との差異としてとらえらず、「主体性」や「社会性」といった基盤の上に立った個性を追求しようとする意識

○様々な交流機会を通して多様な価値観に触れ、自己啓発を図りながら成長できる力

○自分の考えに固執し過ぎず、柔軟な発想で価値観を問い直す力

4 高め合い、行動力のある職員集団の具現

① 職員全員が、生徒一人一人の特徴や変化を把握し、協働により指導できる

② 職員が、高い理想と強い志をもって教育活動を展開できる
(職員の取組の姿そのものが、生徒を感化する学校)

③ 時代の変化に敏感で、先見性の高い教育活動に積極的に挑戦できる

④ 生徒の安全確保の為に、様々な想定をすると共に、予防的な対策がとれる

⑤ 生徒の自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり、活動づくりに積極的・継続的に取り組む

- ⑥ 担当する校務分掌に関して、安易に例年の踏襲にせず、前年の評価等に基づき、自分のアイデアを盛り込んだ提案ができる

5 保護者や地域等と連携し、次世代を担う子どもたちの姿を提案できる学校づくり

- ① 保護者の不安や悩みに真剣に向き合い、解決に向けて協働できる体制づくり
- ② 地域の協力を得て、より質の高い教育活動を展開できる体制づくり
- ③ 保護者や地域の意見・要望を真摯に受け止め、改善を図ろうとする体制づくり
- ④ 学区内の小学校や、隣接する中学校との情報交換・意見交換を積極的に行い、目標とすべき未来の姿を具体的に提案できる体制づくり

6 実現のための手立て

- ① 人間関係づくりに関する教育活動の充実
 - ・自分のよさや変化を率直に評価できる機会の設定（各教科・学級活動）。
 - ・互いのよさや感心したことを紹介し合う活動（各種行事後・学期末等）。
 - ・豊かな人権感覚の醸成を目指す学習との連動
- ② 人権教育、同和教育の計画的な実施
 - ・「いじめ見逃しゼロ県民運動」と連動した人権教育強調期間の設定（6月・11月）
 - ・「社会性育成」をテーマにした授業公開と協議会の開催
- ③ 基礎的・基本的内容の確実な習得、発展的内容への意欲向上をめざした学習の実施
 - ・ゆとりをもった授業時数を確保し、授業時間内での補充学習の時間の設定
 - ・週1回終学活後20分を利用したY-Study(ver2)の実施
 - ・ホワイトボードやICTを有効活用した言語活動の充実
- ④ 生徒の家庭学習に対する意識改革とその充実
 - ・家庭学習ノートの点検とコメントの記入等による習慣化
 - ・家庭学習時間の継続的調査やその公表による意識啓発
 - ・学習方法に関する様々な啓発活動(家庭学習計画・実施の記入指導)
- ⑤ 複数担任制による開かれた学級の実現
 - ・きめ細かな生徒の様子把握と共同・協調による対応
 - ・T・Tによる道徳や学級活動の試行
 - ・生徒の多様性に対応できる教育相談体制の確立
- ⑥ 3年間を見通した計画的なキャリア教育の実践
 - ・外部講師による講話や職場体験学習の充実
 - ・社会貢献を視座とした生き方にかかわる学習機会の設定
- ⑦ 外部講師や外部指導者の積極的な導入、職員との協働による教育活動の展開
 - ・各教科の授業、総合学習、道徳、部活動等における、地域の人たちとの交流機会の充実
- ⑧ 学校評価の進捗状況を反映させた柔軟な学校運営
 - ・各種学校評価の組織的運用と評価結果の学校運営への反映
 - ・多様な評価活動とその分析の実施
- ⑨ 学校だよりや学校ホームページ等による情報公開
 - ・毎月1回の「学校だより」の発行と定期的なHPの更新、配信メールの有効活用
- ⑩ 地域とともに歩む学校づくりの推進
 - ・地域の人たちの教育活動に対する評価を肌で感じる機会（体験活動等）の充実
 - ・教育活動に対する保護者の意識啓発
（PTAと連動して取り組む保護者の来校機会の充実、来校者延べ人数の増加）
 - ・民生・児童委員、自治会長、学校評議員との懇談会の設定
 - ・地域への貢献活動の充実（クリーン作戦・パソコン教室・福祉活動等）
 - ・「地域と学校の未来を語る会」の開催（1月）とそこでの声を参考にした実践
 - ・コミュニティ・スクール推進準備校としての取組の推進
- ⑪ 小学校との信頼関係に基づいた連携の推進
 - ・「社会性育成」の為の諸事業の推進、授業公開による交流、学力向上のための小中連携研修の充実